

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果

大学名	広島大学
整理番号	A10
構想名	世界をキャンパスとして展開する広島大学改革構想

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、教育力と研究力の強化を大学改革の両輪として、徹底した大学改革と国際化により、世界トップ100の総合研究大学となることを目指している。制度改革によるガバナンス強化、教育制度改革、国際通用性を確保することにより、世界中から志の高い学生や研究者を惹きつけるグローバル・キャンパスを実現し、人類と社会が抱える予測不能な課題の解決に貢献するグローバル人材を育成する取組である。</p> <p>構想の実現に向けて、広島大学は、学長のリーダーシップのもと、全学的な組織改革を進め、またデータを活用した独自の客観的指標（目標達成型重要業績指標（A-KPI®）、教員エフォート指標（B-KPI®）など）に基づく改革施策を立案し遂行することにより、ガバナンス、教育制度、国際性に関連して掲げた各指標の目標値を概ね達成していることは高く評価する。これらの取組の成果は、「THE 大学インパクトランキング 2020」でSDGs17項目のうち5項目がトップ100圏内に入ったことや、論文のスコアにおける国際的評価の向上として実を結びつつある。</p> <p>新しい試みである中四国の4大学を巻き込んだ、共通指標（C-KPI）による教員活動状況を可視化するIRシステムの共通運用などの本事業で得たグッドプラクティスの展開も今後に期待が持てる。同様に、従来から連携の強いアジア、アフリカ、カリブ海地域に加えて、欧米との連携強化を進めることは国際競争力の更なる強化の観点においても非常に重要である。特に、国立大学初となるアリゾナ州立大学／サンダーバードグローバル経営大学院—広島大学グローバル校の開設は、広島大学が世界トップレベルの教育・研究環境を提供するキャンパスを実現し、SDGs 未来都市実現に貢献するための大きな一歩であり、ウィズコロナ、ポストコロナ時代に相応しい新しい設計と活動を期待する。</p> <p>自走化に向けた財源確保に関しては、寄附金や企業連携資金、更にはクラウドファンディングの活用など、積極的な上積み計画を立てており好ましい。一方で、今般のコロナ禍の影響で経済状況は不安定であり、より精度を上げると共に他の計画の検討も含めて、計画的に進めることを望む。</p>	